

## 医療特区やIITで発表

## 産学官集まりフォーラム

高 松

産学官の関係者が集まり、新たな成長分野としての健康関連産業の育成を目指す「ヘルスケア・イノベーション・フォーラム」(H-CIF)の会合が20日、高松市内で開かれた。昨年12月に国から特区指定を受けた「かがわ医療福祉総合特区」関連事業や県内のIIT医

療に関連して、県担当者、医師、研究者らが発表。同特区事業は遠隔地の患者を診ることもできるため、東日本大震災の被災地、宮城県や福島県からも研究者が参加するなど、関心の高さを示した。小豆島内でもかがわ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)を利用

している3医療機関の一つ、内海病院(小豆島町)の久保文芳院長は、同島でのK-MIXや、電子カルテ機能統合型テレビ会議システム「ドクターコム」

日本三景[公式サイト]

高松島 井ノ天橋立 安芸宮島

日本三景 検索

<http://nihonsankei.jp/>

日本三景観光連絡協議会

かがわ医療福祉総合特区の概要について説明する  
県の担当者

—高松市内で

の利用状況を報告。また、徳島文理大の桐野豊学長は、同特区事業の「へき地薬局開設事業」などで患者医薬情報を管理する「香川医薬連携情報共有システム」を説明した。

東日本大震災後、宮城県気仙沼市や石巻市などで、被災者の治療などにあった東北大学東北メディカル・メガバンク機構の清元秀泰

教授は、「交通インフラが破壊された被災地の高齢者などの医療をサポートする上で、香川のシステムは、参考になる」などと話していた。【吉田卓矢】

